

新県庁舎建設工事の設計者選定（2次審査）

「プレゼンテーションとヒアリング」

本日はお忙しい中、本会場まで足を運んでいただきありがとうございます。

本日の「プレゼンテーションとヒアリング」は、新県庁舎建設工事の設計者を選定するための2次審査の一環として行うものです。設計者選定は、最適な創造力、技術力、経験、実施体制などを持つ「設計者（人）」を選ぶプロポーザル方式により行います。本日、各候補者より、新県庁舎の配置やデザインなど考え方の提案がありますが、実際の設計については、県と設計者と協議の上、進めて行くこととなり、本日の提案のとおりの内容とはならない場合もあります。なお、本日の「プレゼンテーションとヒアリング」は、設計者を選定するための重要な判断要素となりますので、傍聴マナーには、十分なお配慮をお願いいたします。

■ 本日のスケジュール

- ・ 12：30～ 開場
- ・ 13：00～13：10 注意事項等の説明
- ・ 13：15～14：00 提案者 1 番（説明 20 分、質疑応答 25 分）
- ・ 14：05～14：50 提案者 2 番（ // ）
- ・ 14：50～15：00 （休憩）
- ・ 15：00～15：45 提案者 3 番（ // ）
- ・ 15：45～15：50 今後の予定について
- ・ 15：50 終了

※審査の公平性を保つため、ご来場の皆様並びに審査委員には、提案（説明）者の氏名や所属する設計事務所等の名称を伏せてヒアリングが行われますので、ご了承ください。

■ 傍聴にあたってのご留意点

- ・ 傍聴者からの質問は受け付けませんので、ご了承ください。
- ・ 静粛に傍聴することとし、発言、拍手その他の方法により賛成、反対の意向などを表明しないでください。
- ・ のぼり、旗、プラカード、はちまき、たすき、ゼッケンその他示威のために利用すると認められるものを携帯または着用しないでください。
- ・ 談話をし、または騒ぎたてるなど審査の妨害となるような行為はしないでください。
- ・ ホール内での飲食及び喫煙は禁じられております。
- ・ 携帯電話など音を発する機器をお持ちの方は電源をお切りになるか、マナーモードに設定をお願いします。
- ・ 写真撮影・録音・録画は固くお断りします。
- ・ プレゼンテーション・ヒアリングの途中で入退室をされる場合は、周囲にご配慮の上、お静かに後方の出入口にて入退出をお願いします。
- ・ その他のことについても、係員の指示に従ってください。

※以上のことを守られない場合は、退場していただくことがあります。

裏面にも記載があります。

■プロポーザルの技術提案書の特定テーマについて

プロポーザルでは、以下の8つの特定テーマに対する技術提案を求めています。
 (基本構想の基本理念と基本方針を具体化するための内容)

- ・基本理念「県民とともに新しい時代を切り拓く庁舎づくり」
- ・基本方針「1 県民生活の安全・安心を支える庁舎」
 「2 県民サービス向上のための機能的で新時代環境共生型の庁舎」
 「3 県民に優しく、県民が親しみを感じる庁舎」

基本理念	特定テーマ
「県民とともに新しい時代を切り拓く庁舎づくり」に関わる提案	①基本構想「基本理念」である「県民とともに新しい時代を切り拓く庁舎づくり」を実現するための基本的な考え方
基本方針	特定テーマ
「県民生活の安全・安心を支える庁舎」に関わる提案	②構造、設備の考え方 ③防災拠点整備の考え方
「県民サービス向上のための機能的で新時代共生型の庁舎」に関わる提案	④低炭素社会の実現の考え方 ⑤建築物の長寿命化の考え方 ⑥オフィス計画の考え方
「県民に優しく、県民が親しみを感じる庁舎」に関わる提案	⑦庁舎デザインの考え方 ⑧ランドスケープデザインの考え方

■審査委員会の委員（敬称略・順不同）

- 委員長 林 一馬（長崎総合科学大学環境・建築学部教授）
- 副委員長 安達 守弘（長崎総合科学大学名誉教授）
- 委員 赤司 泰義（九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部門教授）
- 委員 上山 良子（長岡造形大学学長）
- 委員 小松 幸夫（早稲田大学理工学術院創造理工学部教授）
- 委員 坂本 麻衣子（長崎大学大学院工学研究科システム科学部門准教授）
- 委員 篠原 修（東京大学名誉教授）
- 委員 仲 隆介（京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授）
- 委員 室崎 益輝（関西学院大学総合政策学部教授）
- 委員 田中 桂之助（長崎県副知事）

■審査の結果について

- ・このプレゼンテーションの後に、最優秀提案者を特定する審査委員会の審査（非公開）を行います。
- ・プロポーザルの審査の結果については、本日中にプレス発表と県のホームページでお知らせする予定としています。

<http://www.doboku.pref.nagasaki.jp/bidding/info/index.html>

※上記HPの「[入札公告等](#)」をクリック、「公告一覧」の中の最下段に掲載予定

■今回の設計業務の概要について

今回選定される設計者に以下の業務を委託する予定です。

- ・尾上地区全体（長崎魚市跡地全体）の基本設計方針（基本計画）の策定
- ・行政棟と議会棟の基本設計及び実施設計
- ・駐車場棟の基本設計

県庁舎建設予定地(長崎魚市跡地) の安全性について

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、東日本の各地に甚大な被害をもたらし、防災拠点施設としての県庁舎の重要性が改めて認識されました。

新県庁舎及び建設予定地である長崎魚市跡地の安全性については、震災以前に十分確認を行っていましたが、今回の大震災を踏まえて再度専門家の意見を聴くなど、改めて確認を行いました。

新たな庁舎は、防災拠点として、災害に強い庁舎とすることとしています。

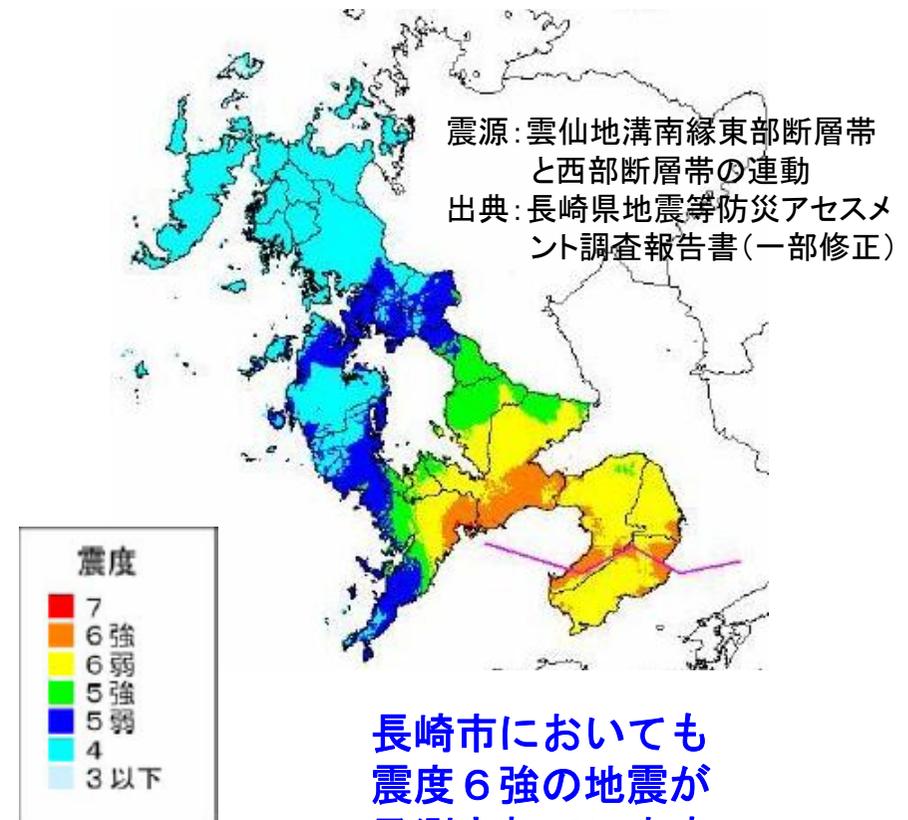
地震対策

近年は、福岡県西方沖地震など、いつ、どこで地震が発生してもおかしくありません。県庁舎建設予定地においては、地質調査を実施し、その結果等を受けて十分な耐震性を確保することとしています。

新庁舎における地震対策

- ①地表面から-20m付近に強固な支持基盤があるため、一般的な杭工事で、耐震性は十分に確保できます。
- ②国の「官庁施設の総合耐震計画基準」に基づき、建築基準法で定める力の1.5倍の力に耐えうる設計とし、設備等についても最高レベルの耐震性能を確保します。
- ③震度6強、震度7の大地震が発生した場合でも、何ら補修することなく庁舎を使用でき、災害対策等の業務を継続することが可能であるため、防災拠点施設としての機能を十分に発揮できます。

(参考) 県内の震度分布図



津波対策①（地震津波シミュレーション）

長崎県に最も影響があると考えられる4連動地震における津波についてシミュレーションを実施した結果、長崎港で生じる津波の高さは97cmであることが分かりました。

シミュレーションの想定

今回東日本を襲った津波は、プレート境界で起こった地震により発生しましたが、長崎近海にはプレート境界がありません。

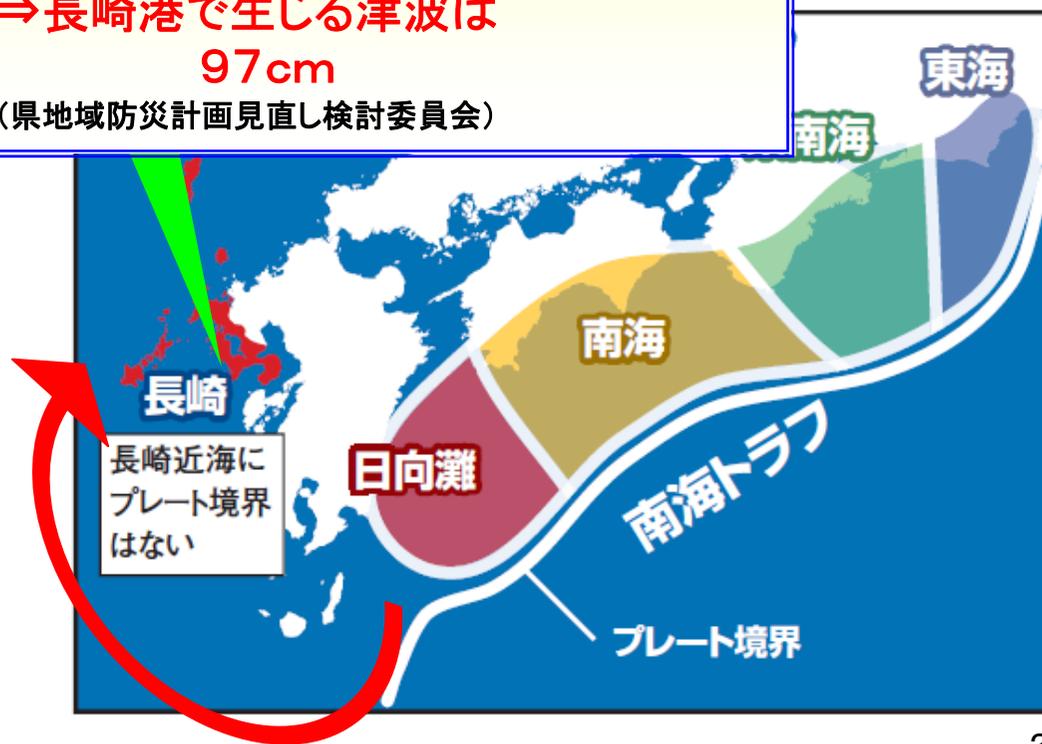
そこで、長崎に最も影響があると考えられる東海、東南海、南海、日向灘を震源とする4連動地震が発生した場合の津波のシミュレーションを行いました(右図)。

シミュレーション結果

(既往最大潮位時、堤防等施設が機能する場合)

⇒長崎港で生じる津波は
97cm

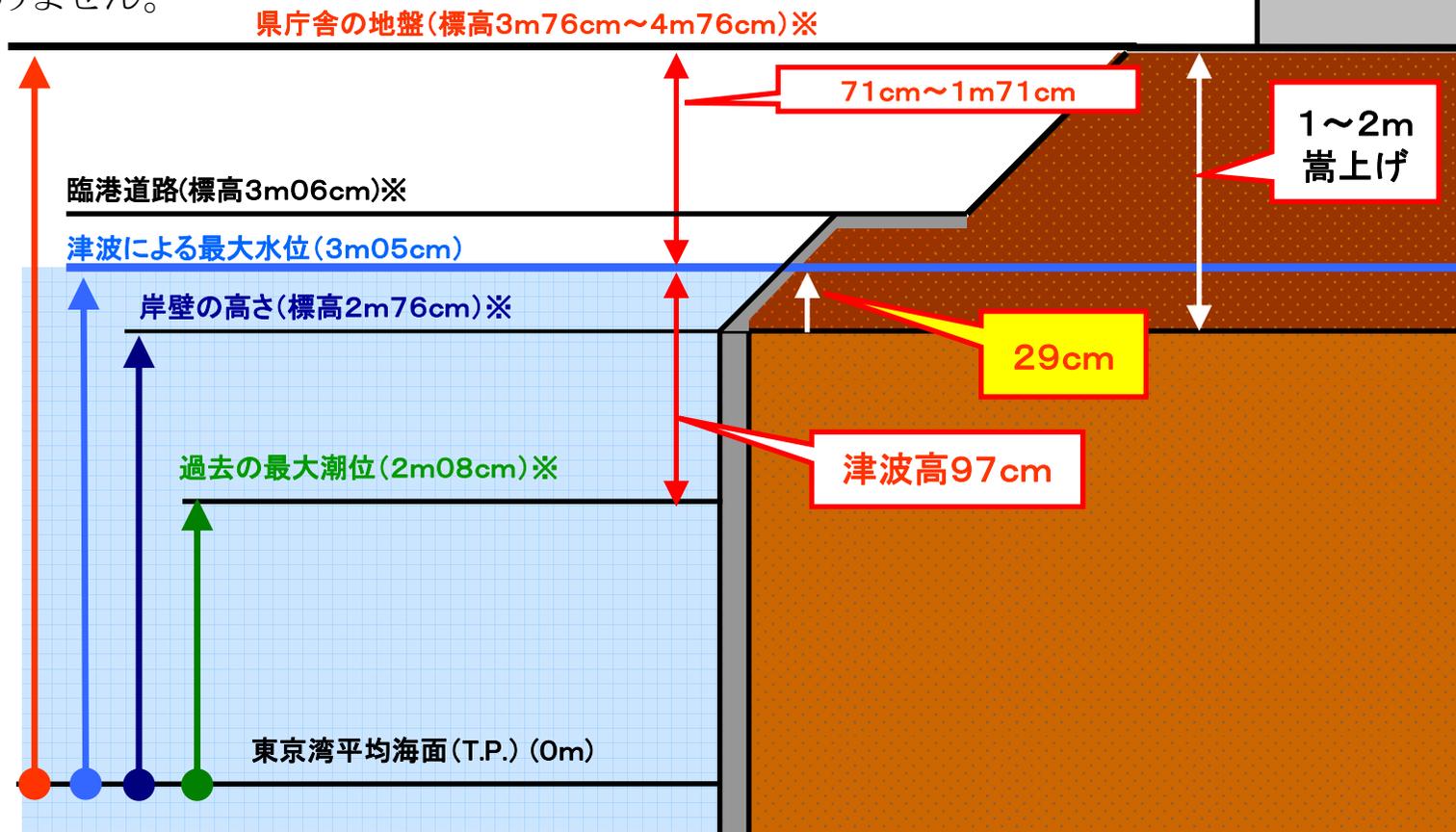
(県地域防災計画見直し検討委員会)



津波対策②（県庁舎敷地の浸水対策）

長崎港において、過去の最大潮位時に4連動地震による津波が発生しても、庁舎建設予定地の外周を取りまくように整備する予定の臨港道路で浸水は止まり、庁舎敷地は浸水しません。

長崎魚市跡地の岸壁の高さは、標高2m77cmで、津波による最大水位は岸壁よりも29cm高くなりますが、新庁舎の敷地は、1～2mかさ上げする予定であるため、浸水することはありません。



※4連動地震によって、海底面と地盤の高さが平常時より1cm沈降することになります。

津波対策③(県庁舎敷地の浸水予測図)

長崎県で最も影響がある地震津波シミュレーションの結果を踏まえ作成した浸水予測図からも、県庁舎建設予定地には浸水しないことが確認されています。

シミュレーションの想定

県庁舎建設予定地をかさ上げし(新庁舎建設後)、長崎駅周辺(区画整理事業)を計画地盤高にかさ上げた場合の浸水予測図は、次のとおりとなります。

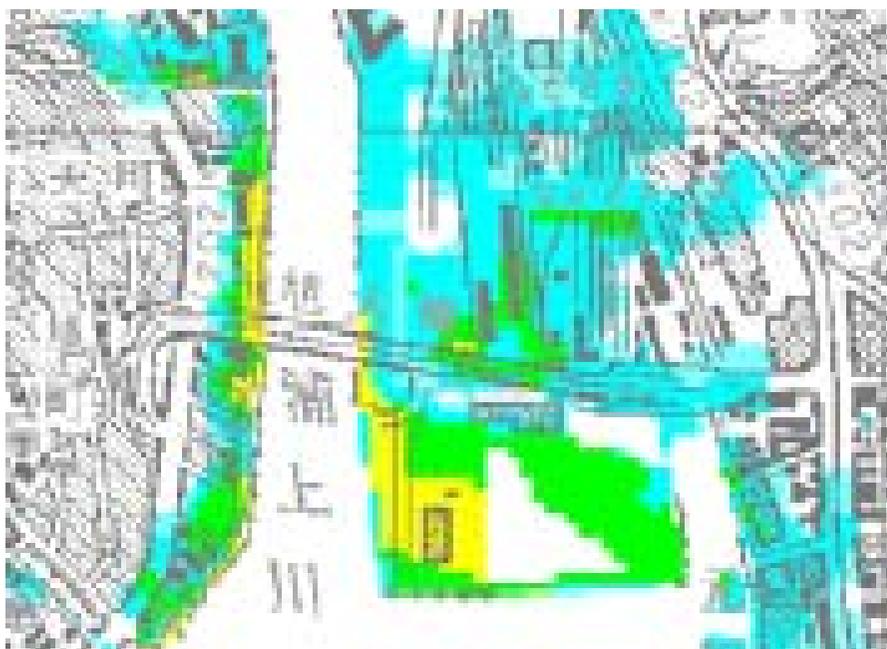
シミュレーションによる 浸水予測の結果

浸水予測の結果でも、庁舎敷地は浸水しないと確認されています。

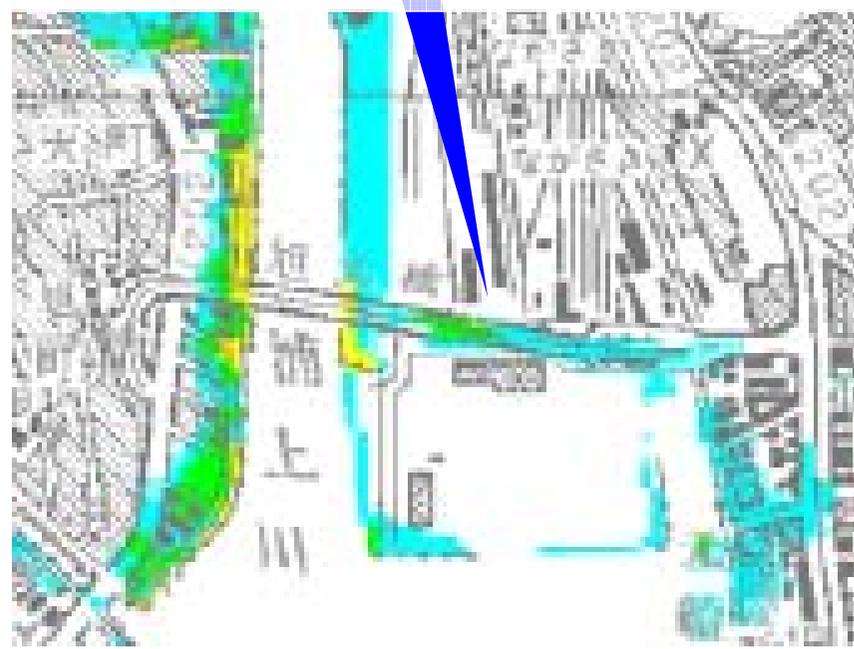
浸水深(m)

■	2.0 ~ 5.0m未満
■	1.2 ~ 2.0m未満
■	0.8 ~ 1.2m未満
■	0.5 ~ 0.8m未満
■	0.15 ~ 0.5m未満
■	0.0 ~ 0.15m未満

【現状】



【敷地をかさ上げた場合】



液状化対策

東北地方太平洋沖地震は、各地に甚大な液状化被害をもたらしました。県庁舎建設予定地では、適切な液状化対策を実施し、安全性を確保します。

新庁舎における液状化対策

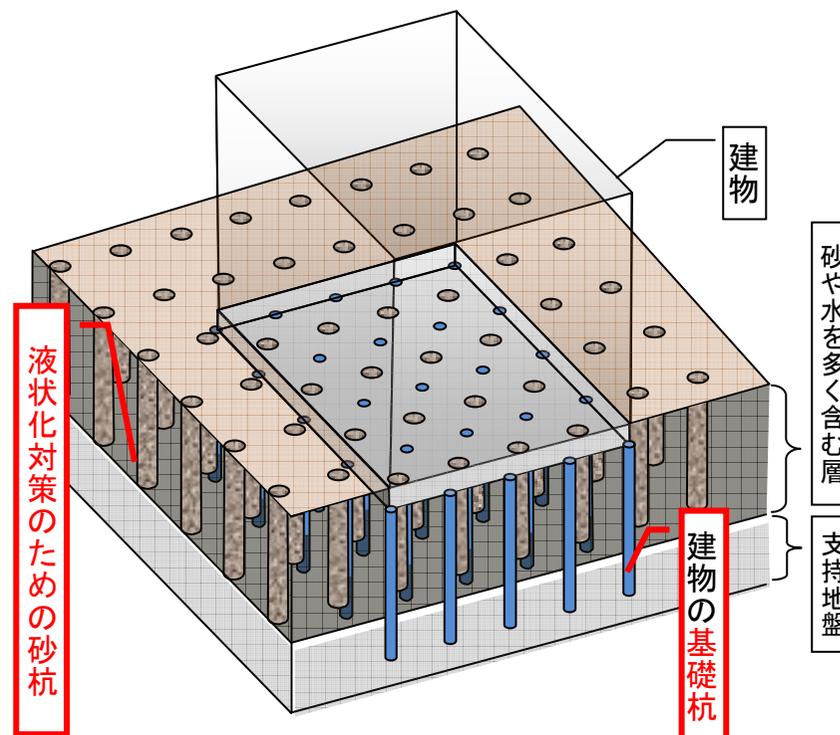
○県庁舎建設予定地には、「締め固め砂杭工法」などの適切な対策を講じることとしています。

○この工法については、専門家から、「大規模地震に対しても液状化の危険度を低く抑えることが十分に可能である。」との見解が示されています。また、東日本大震災でも、液状化対策の有効性が確認されています。

○長崎魚市跡地へのアクセス道路である都市計画道路浦上川線については、液状化の被害が一部発生する可能性はありますが、車道は全幅が22mあり、車両通行は可能であると考えています。

※締め固め砂杭工法

地中に穴を掘って砂を押し込むことで、砂杭を作り、地中の密度を増加させ液状化を防ぐ工法



参考：千葉県浦安市の液状化について

千葉県浦安市は、今回の震災で甚大な液状化被害を受けましたが、対策を実施していた大型建築物等に被害はなく、液状化対策の有効性は立証されています。



対策をしていない建物の被害



車道は波打っているが、通行に支障なし

○建物

杭等により対策を実施している大型の建築物は、沈下・傾斜等の被害はなく、建物の周囲部分が道路と一緒に沈下し、一部段差等が発生した程度。東京ディズニーランド等においても、対策を実施している園内には液状化現象は発生しなかった。

戸建て住宅等は、対策を実施していないため、沈下・傾斜等の被害があった。

○道路

・車道部：路面が波打っている箇所が散見されたが、局所的な被害であり、安全確保のために一般車両の通行止めを行った区間でも、緊急車両は通行することができた。

・歩道部：特にインターロッキング舗装部分の液状化被害が目立った。

洪水対策

長崎港における過去の最大潮位と長崎大水害相当の降雨が重なった場合、一時的に長崎駅前付近が浸水する可能性はありますが、都市計画道路浦上川線は通行でき、新県庁舎へのアクセスは可能です。

長崎駅前周辺の洪水対策

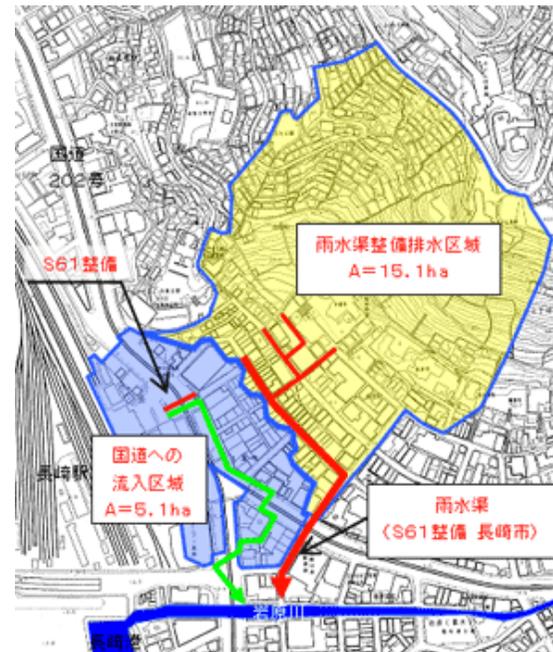
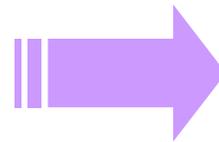
長崎駅前周辺については、長崎大水害後に雨水排水管が整備されており、整備後は、長崎大水害（昭和57年）相当の降雨時にも、長崎駅前付近で通行規制を行うような浸水被害は発生していません。長崎市が実施した雨水排水のシミュレーションの結果によると、現長崎駅前付近が一時的に浸水する可能性はありますが、長崎大水害後に整備された浦上川線を通行できることから、仮に過去の最大潮位と重なっても、新県庁舎へのアクセスは可能です。



【長崎大水害当時】

○道路側溝で排水できない雨水があふれ、長崎駅前に流れ込んでいた。

○駅前広場付近の浸水深さ0.5～1.0m。



【長崎大水害以降の整備】

○長崎市が雨水排水管を整備。

○長崎駅前に流れ込む雨水は1/4に減少。